

繁殖力の強い外来造園・緑化木

【問題種】

シンジュ、セイヨウイボタ、トウネズミモチ、ナンキンハゼ、ヒイラギナンテン

【生態】

○シンジュ（ニワウルシ）

中国原産のニガキ科の落葉高木。
1880年頃渡来し、公園や街路に植栽された。



野外で繁茂するシンジュ

○セイヨウイボタ（プリペット）

モクセイ科の半常緑低木。生垣によく用いられている。

○トウネズミモチ

モクセイ科の常緑低木。工場緑化、都市公園、道路緑化によく用いられている。
冬に黒紫の実をつけ鳥に食べられて散布される。



左：トウネズミモチの花
上：トウネズミモチの実

○ナンキンハゼ

トウダイグサ科の落葉高木。冬に白い実をつけ鳥に食べられて散布される。



左：野外に逸出したナンキンハゼ
上：ナンキンハゼの実

○ヒイラギナンテン

メギ科の常緑低木。冬に黒紫の実をつけ鳥に食べられて散布される。



ヒイラギナンテン

【問題点】

鳥によって、上述の植物の種子が里山へ運ばれ、定着し、さらに増殖して分布を拡大させている。在来種の生育立地を奪っている。

【侵入経緯と県下の分布状況】

県下に広く分布。

【加害状況】

宝塚市中山台ではオオバヤシャブシ人工林の林内の大半が上述の造園・緑化木などで構成されていた。今後各地で増加し、在来種の生育を大きく阻害すると考えられる。

【対策事例】

○春日山など